

ふれあい つながり かわら版

探究的な学びの楽しさはつながり、 よりよい姫路を実現させる。

三月五日(日)にアクリエひめじ大会議室にて、公益社団法人兵庫県専修学校各種学校連合会主催による、「高専連携プログラムキャリア形成イベント KOKOKARA」自分の持ち味の活かし方を考える一日」というキャリア教育に関するイベントが開催されました。



専門学校生による司会進行

ポスターセッションに、白鷺小中 elementary 部・中学部、四郷学院後期、豊富小中後期、安室中、高丘中、山陽中、飾磨中部中の児童生徒と教員が参加し、主に「総合的な学習の時間」に取り組んだ学習の成果を発表しました。高等学校の部では、姫路東高、姫路飾西高、香寺高、姫路高、飾磨高、市川高の生徒が「総合的な探究の時間」に取り組んだ成果や生徒会活動の取組を発表しました。また、書写養護学校の高等部の生徒がオンラインでまちづくりについての発表を行うなど、参加者にとっては、校種を越えて日頃の学びの成果を交流することができ、貴重な時間となりました。

開会挨拶では、主催者を代表して大岡豊会長から、「君たちは十年後に何をしているか?十年後に向けて今から何ができるのか?そういったことを考えるスタートの日になったらと思いい、イベントを『KOKOKARA(ここから)』と名付けました。」と参加者に向けて

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



てメッセージが送られました。また、姫路福祉保育専門学校の前田真吾校長からは、「自分の人生の流れを意識して参加してください。小学校、中学校、高等学校、専門学校、企業の発表を全て自分ごととして聞き、自分ごととして振り返ることが大切です。」とイベントへの参加姿勢についても示唆がありました。



中学生の発表の様子

小中や小高の連携、保幼小や中高の連携については、これまでも取組が見られましたが、義務教育段階の児童生徒から高等学校、専門学校に通う学生、企業に勤める社会人まで一堂に会して行われるイベントは珍しいものです。児童生徒には、自分の持ち味に気づく機会となり、教員には、「総合的な学習の時間」や「総合的な探究の時間」の授業づくりのヒントになったように思います。特に小・中学生の総合的な学習の時間に探究した内容の発表に、高校生や専門学校の学生が熱心に耳を傾け、質問をしている姿はとても新鮮で、発表内容も、日頃の身近な疑問を題材にしたものからSDGsや高齢化問題まで多岐にわたっており、聞きごたえがありました。



高校生の発表の様子



小学生の発表の様子

基調講演では、姫路市出身で前経済産業省中小企業庁長官の前田泰宏氏から児童生徒に熱いメッセージが送られましたので、その一部を紹介します。

見えないものが見えるようになったり、聞こえなかったものが聞こえるようになったりすることを成長という。自分の得意なこと、自信があることは、自分のためではなく誰かのために使ってほしい。何もしなければ失敗することはないが、それでは何も生み出さない。そして、失敗したときは無理に立ち上がろうとせず立ちつくせばいい。立ちつくしているときにこそ気づくことがある。

また、前田氏は、自身の経験をもとに、ポスターセッションやプレゼンテーションを行った児童生徒に向けて、「成功の反対は失敗ではなく、挑戦しないことである」と発表に対する講評もいただきました。



地元企業によるプレゼンテーション

他にも、日本工科大学校、日本調理製菓専門学校、神戸電子専門学校で学ぶ学生、まねき食品株式会社、神姫バス株式会社で働く方によるプレゼンテーションがありました。同じ会場で校種や立場の違う人たちの話を聞くことで、義務教育段階の探究的な学びの楽しさが、高等学校や専門学校での学びや企業での新しい企画の立案につながっていることが分かりました。児童生徒には、学校だけではなく、出会うことができる大人たちから学ぶことができる素晴らしい機会となったのではないのでしょうか。

「ふれあい つながり かわら版」では、小中一貫教育に関する内容を中心に、異校種間連携に関する取組についても発信していきます。取組に関する情報がありましたら、学校指導課までお知らせください。